

八重山広域市町村圏事務組合設立20周年記念
人材育成事業黒潮塾

書に親しむ 〓南龍先生とともに〓

『書は夢の扉をひらく』

(講演要旨) 下

私が経験している書道の道は、30年掛ってやっと一人前だということなんです。普通の書の学び方をするならば、早くこの課程を通じてきた先生方に出会うことが大事だと思っています。それによって書が楽に学べ、親しむことが出来ます。私は、県内の小学校を回って実技指導をしています。門下生に、全国の大会で優秀な成績を収めている中学2年生の山田天斗君がいます。宜野座村から那覇の私の本部に通ってくれていますけれど、彼が小学校3年生の時、南風原の小学校の体育館で開催した勉強会にお母さんと、塾の

先生方が連れてきました。その時、僕の授業に感動して自分の人生は書の道だと決め、毎日努力しているのです。頭脳明晰(ずのうめいせき)で、凛(りん)としていて、このあいだテレビで映っていました。ご覧になった人いますか? OTVで映っていました。とにかく、私は、そういう子どもたちが出たことをすごくうれしく思います。子どもたちに夢を持たせることの大切さを、私は会場の皆さんに強く訴えたいのです。何でもいいです。自分の大好きなもの何かを探すことが一番大事だと思うのです。それ

に大人になったら誰々さんといった「はい」と言わないじゃないですか。私は、これは嫌いですね。必ず門下生には名前を呼ばれたら「はい」と言わせていただきます。あいさつをきちんとすることはとても大事なことです。嫌いなことを一生懸命に頑

いでしようか。そう思いませんか。ここにいらっしゃる方々が「いや」といつたらうそをついていると思います。私は、「自分というそをつくな」ということを言っています。だから、自分の大好きなことは徹底してやらせます。奨励させることを町ぐ

を代表して中国に行った沖縄の子どもたちに、日本のトップの先生方が注目して下さっているんです。「はい」と言つて立つ。そして「凛」としています。日本代表であいつしなさいとも言われても、動じないで話ができる子どもたちになつています。

のです。将来、与那国島から日本を代表する、プロ野球選手でもかまいません。何でもいいです。とにかく、歴史に名を刻める人になっていただきたいとおもうのです。「虎は死して皮を残す」「人は死して名を残す」という言葉のように、私が

し書を学んで、冷静さを学んだらどうなんだ」と言われたという逸話があります。大臣になられたら必ず、どこかで揮毫(きごう)をしなければいけないということなどを心得ておられて、書を学ぶことの大切さを言われたのだと思います。そんな思

いふことの大切さ、そこにあるんじゃないかなと、思えてならないのです。たくさんしゃべりたいことがありますが、あとは書きながらお話ししたいと思っています。どうもありがとうございました。



夢を持たせることが大切

書は自分を磨き育てる

張りなさいと言うのでなく、大好きなことをたくさんすることです。これは人を変えます。大好きだったらご飯を食べないでも、取り組みます。嫌いなものさせられたら、いつご飯が出てくるか、いつこれから逃げられるかなあと考えるのが普通ではな

るみでしていただきたら与那国町はきつとすごい町になると思います。好きなことに一途に取り組むと、今までナヨナヨして、気を付けさせても手がぶらぶらしていた子どもたちが、凛と立つようになります。成田山競書大会で日本一になり、日本

それは何か。あいつをしなさいです。自分の名前を言われたら「はい」と言いなさい。「凛」と立ちなさい。そう言うことを、ただこれだけです。が最も大切なことです。それが人を変えている、思ったらですね、こんなうれしいことはないと思う

きよう、与那国に来たことは、皆さんと出会いを大切にしたいと思ったからです。日本の総理大臣で田中角栄さんという方がいらつしゃいましたね。その前に佐藤栄作さんという総理大臣がおられました。田中角栄さんに「君はがさつだから、もう少

いなどがあつてですね、書を学ぶということは、まさに自分を育てるという境地に入ることがあるということです。どうぞ、このご縁を大事にしたいと思えますので、一緒に書を学んで、人生を変えてみていただきたい。やつぱり、精神面を鍛えると



書の実演を通しての講演会
(与那国町保健センター)

